

31. 生活クラブ

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	生活クラブ
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	※通称:生活クラブ風の村
① 団体の設立目的			
<p>当団体は、以下の3つの理念としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの個性と尊厳を尊重し、基本を大切にした質の高い支援を目指す。 ・地域の人達と共に、誰もがありのままにその人らしく地域で暮らすことができるようなコミュニティづくりに貢献する。 ・情報公開、説明責任を大切にするとともに、希望と働きがいのもてる職場を、自らが参加してつくっていく。 			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1998年4月	東葛、北総、千葉、市川、船橋、市原	1200人	多い場所:120人超 少ない場所:20人程度

[主な活動内容]

- ・地域生活支援センター
 - 24時間365日体制で、障害や年齢に関わらず、どんな相談にも応じ、適切なサービスを紹介する。
 - 千葉県が行っている中核地域生活支援センター事業を、柏市が独自事業として引き継ぎ、生活クラブ風の村が運営を受託している福祉総合相談窓口。
- ・地域包括支援センター
 - 保健・医療・福祉の専門家が、地域の方々の健康や生活に必要な支援を包括的に実施。自宅でも施設でも、一貫してサービスが受けられるよう支援する地域のネットワークづくりを行っている。
- ・障害児・者日中活動支援事業
 - 障害を持つ子どもたちが、放課後や休日をリラックスして、思い切り遊ぶことのできるデイサービスや、18歳以上の方が自立生活を目指す就労支援サービス。
 - 将来のことを本人や家族と一緒に考え、地域の福祉サービスとも連携しながらサポートを実施する。
 - 注)上記は全て地域によって取り組み内容は異なる。
- ・地域支え合い活動としては、「生活支援」「日常の居場所づくり」「ミニシアターの企画」を行っている。
 - 「ミニシアターの企画」:この企画に集まった人達からニーズを聴取し、必要な生活支援に繋げている。

(2) 活動状況

- ・地域支え合い活動に取り組んだきっかけとしては、当団体は、社会福祉法人として地域の福祉を行なっているが、サービスは制度に沿ったものとなっていた。ただ、実際の利用者のサービスは「電球を取り換えて欲しい」というようなものが多く、その要望に応じていくことが発端だった。
- ・生活クラブの関連団体に声をかけ、それぞれにいるケアマネから情報を収集し、それぞれの地域のニーズを集め、それに基づいて各団体ごとにできることを始めていった。その立ち上げ資金として、こちらが援助していくやり方。
- ・もともと当団体では、地域福祉支援積立金という制度を設けており、地域で活動しているNPOなどに助成していた。
- ・2011年度は「地域支え合い体制づくり事業補助金」を活用したが、県から補助金の話があったことが申し込んだきっかけとなった。補助金なしでは、取り組むことができなかった。
- ・利用料は内容に応じて支払ってもらうが、生活支援は1回500円くらいとなっており、スタッフ(ワーカーと呼ぶ)には1時間860~1,200円くらいを支払っている。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・いずれの団体とも情報交換を行っているほか、自治会とは生活支援について自治会主導のものとしてパンフレットを配布している。社協とは、生活支援は社協で行っていることが多いため、当団体の傘下の団体ごとに地域の社共と調整しながら活動を進めている。

②情報発信の状況

- ・「団体のHP」「回覧板(自治会と連携)」「生活クラブ生協機関紙」「リーフレットの配布」が主なもの。
- ・傘下の団体ごとにポスティングの実施なども行っており、認知浸透に向け取り組んでいる。

<当団体のパンフレット>



<当団体のHP>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「地域住民の認知や理解」「場所の確保」「手続きの煩雑さ」。
- ・当団体の場合、実際に地域支え合い活動を実施するのは、傘下の団体であり、やり方などについて直接指示を出すことはない。そのため、本部で想定したものと違うことがある場合の対応が問題だった。
※例：上映会において、本部での目的は集まった人達に話を聞き、生活支援に繋げていくことであったが、実施する団体サイドでは、ただ上映することが目的となっている等。
- ・また、地域の福祉事業に不慣れな人が立ち上げたため、進捗がはかどらず、予定よりも時間がかかるということもあった。ただ、本部の立場としては、見通しを聴取し待つだけという対応となる。借りたい空き店舗が駄目になることもあったが、本部では特に対応することはなかった。
- ・本部でやれることは、「方向性の相談」「資金の提供」「付近の社会福祉の事務所を紹介し、繋がりを持てるようにする」「どこに行けば人が集まるかなどの情報提供」となっている。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフ(有資格者を除く)の確保」「地域住民の認知や理解」「手続きの煩雑さ」。
※上記の問題点は、傘下の団体が運営上直面する問題点となっている。
- ・運営については、原則として実施団体に任せている。各団体で共通してみられる問題としては、初めて活動する人達の集まりであるため、全員が手探りである。本部としては、付近の社会福祉の事務所を紹介して、1本立ちできるように向かわせ、当団体から独立するように支援している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・当団体で直接立ち上げや運営をする訳ではないため、特に工夫などはしていないが、インフォーマル活動が円滑に進み、早期に独立できるように情報提供等を行っている。

(6)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・生活クラブとして詳しいマニュアルを策定した。ただ、地域支え合い活動であるインフォーマル活動については、災害・緊急時の対策は、各団体・各グループで行うことになっている。

32. 地域創造ネットワークちば

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	地域創造ネットワークちば
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
「共に手を組み、団塊シニアの手で、千葉県を変えよう」という理念のもと、団塊世代やシニア層が持つ豊かな知識や経験を活かし社会貢献できるように、NPOやボランティア活動への参加、就労、就農、起業などの支援のための事業(相談・研修・情報提供・調査・連携(ネットワーク)など)を行い、「千葉県をもっと活気にあふれ、住みよいまちにする」地域づくりに寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2007年5月	千葉県	-	-

【主な活動内容】

- ・相談事業：NPO・ボランティア活動への参加、NPO設立、企業・創業、NPOマネジメント・運営、地元企業へのUターンなど就労支援、就農支援等。
- ・研修・講座事業：「地域で生きる・活かすセミナー」「ボランティア養成講座」「NPO基調講座」「マネジメント講座」、NPO体験研修プログラム、退職前研修、ボランティア実習、地域福祉の現状・課題の学習会等。
- ・情報収集・提供事業：情報誌・ニュースレターの発行、ホームページの開設・更新運営、体験受け入れNPO一覧・検索、NPOスタッフ・ボランティア・参加者募集情報の登録等。
- ・調査事業：団塊シニア世代の地域活動への意識調査
- ・連携(ネットワーク)事業：会員団体の強みを活かしかうネットワークづくり、全国の団塊シニアネットワーク・県・市町村・国の関係機関との連携・協力、経済団体との連携で地元企業等への就労支援の橋渡し。

(2) 活動状況

- ・インフォーマルサービスの提供
 - 高齢者、障害者、家庭での介護者、一般を対象に、ユニバーサル農業ネットワーク事業の一環として、地域とつながり、経済的にも潤ってもらえるような支援に取り組んでいる。
 - 具体的には野菜の販路拡大を支援するほか、農業技術の取得機会の提供を行っている。
 - (当団体が保有しているネットワークの中で学びとってもらおうことを目指している)
 - サービスの利用について、利用者の負担は無料で、運営資金については、賛助金、行政からの補助金、委託事業の場合は委託費等によって賅っている。
- ・千葉県内において、担い手が不足してきている農業について、退職後の新規就農を目指す人たちや、県内で耕作に関する障害者福祉活動を行なっている団体に対し、ユニバーサル農業の技術の提供や販路拡大のサポートのニーズがあることを、調査事業の中から見出したことが活動のきっかけとなっている。
- ・立ち上げの際には、静岡県浜松の京丸園の活動を参考にした。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・「NPO法人」「社会福祉法人」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・活動に向けたネットワークづくりを行っていくうちに、現在のような団体等との連携関係ができ、情報交換だけでなく、イベントへの協賛、協賛金を提供したり、提供してもらったりなど、資金面での連携も行っている。

② 情報発信の状況

- ・「団体のHP」「ソーシャルネットワーク」「セミナー等での告知」「メールマガジン」「情報誌「それ!YAPPE」」で情報発信している。

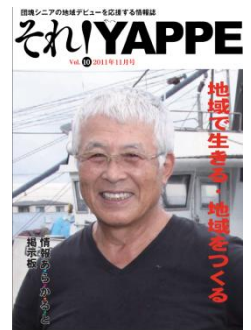
<当団体のパンフレット>



<当団体のブログ>



<当団体発行の情報誌>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ネットワークづくり」。
- ・資金不足については、広報活動などを通じて会員を増やすことによって、会費収入で対応した。
- ・ネットワークづくりについては、会員集めを兼ねて関係機関を訪問し、当団体の活動の趣旨を伝え、協力を得るようにしていくことで対応した。
- ・関係機関については、連携関係をつくっていくことで、イベントへの協賛、協賛金の提供なども依頼している。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ネットワークづくり」。
- ・ネットワークづくりについては、他の事業に関して県からの委託事業が減少しており、それに伴い資金も減少傾向にあり、資金不足の問題にも直面している。連携している団体から協賛金を募ることなどで対応している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・県内で様々な団体とネットワークを組んで取り組んでいる事業であり、特に障害者福祉の分野は他の分野の団体との連携が重要である。
- ・補助金の交付を受けたことで、イベント(ちばユニバーサル農業フェスタ等)を開催することができ、関係する福祉施設、NPO、企業、行政機関などとの関係構築ができた。

(6)今後の活動に向けて

- ・当団体は、主要な対象者を団塊世代以降に定めており、地域のことをよりよく知ってもらうことを念頭に地域支え合い活動の実施・普及に取り組んでいく。

33. 若松台三丁目自治会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	若松台三丁目自治会
② 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域に住む人たちが、明るく住み良い豊かな町づくりを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1974年4月	千葉県若葉区若松台三丁目	-	月平均2~3件 ※買い物代行等の生活支援

[主な活動内容]

- ・防犯街灯の設置・管理
- ・環境美化・生活を守る活動
- ・自主防災・互助活動
- ・文化・レクリエーション活動

(2) 活動状況

- ・インフォーマルサービスの提供

→生活支援: 原則65歳以上の高齢者を対象に、(1)買物の同行・代行 (2)ごみ出し (3)屋内外の掃除、洗濯 (4)庭木の手入れ、草取り (5)ペットの世話 (6)電気器具の簡単な修理・修復 (7)家具の移動・破棄 (8)食事づくり のサービスを有償で提供。

登録制で、現在、利用会員が29名、支援会員(サービスを行う側)が109名となっている。

サービスの対象となる65歳以上の高齢者が当地区には700人いるため、利用会員、支援会員とも登録数がまだ少ない状況。

30分のサービスで250円、1時間で500円。

基本的に1時間以内に終わる内容を引き受けるようにしている。

2012年の4月1日から始めたので、実績は少なく、月に2-3件程度の利用にとどまっている。

- ・生活支援に取り組むにあたっては、千葉市の老人クラブ「ふれあい広場」の活動で、友愛の輪という在宅福祉の仕組みを参考にした。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係のある団体は、「自治会・町内会」「任意団体」。
- ・地域支え合い活動で、最も関係が強いのは、「ふれあい広場」という老人クラブとなっている。

② 情報発信の状況

- ・情報発信は、「閲覧板」「県・市町村のHP」が主な手段である。

<千葉市のHPによる当団体の活動紹介ページ>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・生活支援での問題点「資金不足」「高齢者等の理解」「地域住民の認知や理解」「個人情報の取り扱い」
- ・資金不足については、補助金の交付を受けた。
- ・高齢者等の理解、地域住民の認知や理解については、地区を12ブロック(平均60世帯程度)に分けブロック担当者を一人配置し、仕組みの説明と支援会員・利用会員募集を地道に行った。
- ・「向う三軒両隣」で面倒を見るという気持ちがあるため、自然に長続きできる仕組みの定着を目指している。
- ・個人情報の取り扱いについては、独居老人を民生委員3名でみているが、どのような要望があるかなどの情報が入ってこない。
- ・団体から積極的に連絡をしたいが、周辺の住民が見守りを行うという考えが基本の意識としてあるため、個人情報を共有化して活用するまでには至っていない。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「地域住民の認知や理解」「個人情報の取り扱い」。
- ・立ち上げ時と同様の状況・対応。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域支え合い活動をより充実させていくためにも、様々な活動から学ぶ姿勢を大切にしている。
- ・また、朝8時に「無事ですタオル」を全世帯が玄関に掲げる運動に取り組む予定。

(6)今後の活動に向けて

- ・地域支え合い活動の生活支援については、2012年1月からスタートしたが、7月時点で月平均2~3件程度の利用になっているため、無理なく、長続きするようにしたい。
- ・活動を継続していくため、役員会を2カ月に1度、運営委員会を2カ月に一度行うことで、毎月どちらかの会があるようにし、情報共有を密にするように取り組んでいる。

34. 法典ひまわりたすけあいの会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	③ 任意団体	5 地区社協	法典ひまわりたすけあいの会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
法典地区に住む人々がお互いの助け合いにより、安心して生活ができるように自分のできる範囲で、地域の福祉、健康、文化の伝承に心を尽くすことを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1998年5月	船橋市法典地区	28人 うち、有償活動対応可能者:11人 ※無償活動は全員対応	無償活動:405人 有償活動:302人 ※2011年度実績

〔主な活動内容〕

- ・無償活動: 船橋あさひ苑、ローセンヴィラ藤原、誠光園、老人憩の家にて、縫物・話し相手・草取り・行事手伝い
- ・有償活動: 利用者の自宅における、清掃、買物、入浴見守り、病院介助、庭の草取り、枝切り、消毒他
家事援助は1時間500円 うち100円は会の運営費として納入、事業部活動は1時間600円 うち100円は会の運営費として納入。
- ・催事活動(ひまわりコンサート: 年に1回11月に65歳以上のお年よりを招待して「生」で聴けるコンサートを開催。
2012年で20回を迎え、1回あたり100名以上の参加者がある)
(講演会・講習会: 不定期にまちづくり出前講座を活用しての学習会)
※まちづくり出前講座: 船橋市で実施している講座で、民間団体等の要望に応じて学習会や集会に市の職員が講師として出向くもの。

(2) 活動状況

- ・法典地域に住む人々が、お互いの助け合いにより「安心して生活ができるように自分でできる範囲で、地域の福祉、健康、文化の伝承に心を尽くす」ことを目的とする。
- ・1992年7月にボランティアグループ「ひまわり」として活動を開始し、1998年5月には、法典地区連合町会、民生委員、地区内ボランティアグループなどが連携を強化し、より幅の広い活動を目指すことを目的に法典地区社会福祉協議会の傘下に集結し、「法典ひまわりたすけあいの会」として発足・活動を開始。
- ・2007年4月、公民館の使用料の改正に伴い、法典地区社会福祉協議会から独立し、船橋市の任意の福祉団体として再出発。
- ・資金面については、市(行政)より「地域福祉活動助成金」を受けており、現時点では特に問題は生じていない。
- ・助成金以外に有償活動を行っているものがあり、有償活動を通じていくらかの収入がある。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係の状況

- ・特定の団体との連携関係は特にはないが、民生委員の方や地域包括支援センターとの連携や、社会福祉協議会での会合などを通じて、他の団体との情報交換等を行っている。

② 情報発信の状況

- ・チラシの配布をメインとして行っているほか、船橋市の市民活動サポートセンターが運営している「ふなばし市民活動情報ネット」において団体の概要や活動内容などの情報を掲載している。
- ・チラシについては、個別での配布のほか、公民館などの公共施設に置かせてもらっている。
- ・市民活動サポートセンターのHPに団体の概要等を掲載しているが、パソコンに詳しい会員がいないことなどもあり、独自でホームページの開設をするには至っていない。
- ・年に1回のひまわりコンサートなどの催事では、パンフレットの配布や会員を通じての口コミのほか、地域のスーパーや駅などでポスターを掲載してもらうことで情報発信を行っている。

<友愛活動:チラシ>



(4)活動における問題点と対処状況

①運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」。
- ・発足してから約20年となることから、会員(ボランティアスタッフ)が高齢化してきていることが問題。
- ・現在の会員(ボランティアスタッフ)は50-80代で構成されているが、減ることはあっても増えることがない状況。募集は、チラシを配布するなどをして行っているが、なかなか確保できない。
- ・その理由としては、有償活動の中には高齢者の自宅を訪問して掃除や草取りなどを行うといったことのほか、草刈りや剪定では、庭の外観づくりなど多少の技術を必要とすることなどがあげられる。
- ・また、50-60代の年齢層を確保しようとする場合、現在就職中の方も多く、平日には活動しにくいといったことも会員(ボランティアスタッフ)の確保を難しくしている。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・限られた会員(ボランティアスタッフ)の中で活動しているため、スタッフに出来るだけ負荷がかからないようなローテーションとなるように工夫している。
- ・相互に忙しい中での調整となるため、活動ができそうな「空いている日」については、事前に確認を行っている。
- ・また、他の団体とのネットワークづくりについて、現状では特に積極的に連携する相手を探している訳ではないが、社会福祉協議会が行っている情報交換会に参加するなど、他の団体の状況などの情報把握をするようにしている。

(6)今後の活動に向けて

- ・ボランティアスタッフの高齢化と新たなボランティアスタッフの確保が大きな問題となっている。
- ・当面は限られたスタッフの中で運用していくことが課題となっており、こうした人的な課題が解決された後、その次のステップとして災害・緊急時における地域支え合い活動などの取り組みを検討していきたい。

35. たすけあいスプーン

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	たすけあいスプーン
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
在宅で援助が必要な高齢者やその家族、その他の手助けを必要とする人々に対して、地域に根ざした介護サービスの提供や、助け合いに関する事業を行い、すべての人々が生きがいを持って健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1988年4月	野田市	約40人	480人 ※サロンなど助け合い活動のみ

[主な活動内容]

- ・在宅福祉サービスに関する事業
- ・介護保険法に基づく訪問介護事業及び居宅介護支援事業
- ・行政、民間企業、公益法人との福祉関連事業の連携
- ・市民組織との連携事業
- ・社会福祉に関する調査、研修、啓発などに関する事業

(2) 活動状況

- ・見守り活動
→ 高齢者や障害者を対象に、自宅を訪問して話し相手を行っている。
会員と介護サービス利用者を対象としている。
- ・サロン活動
→ 日中を1人で過ごす高齢者を中心に声かけをし、2か月に1回、当団体の事務所を開放し、茶話会を行っている。
参加費用は200～300円程度。
会員のみを対象としている。
- ・インフォーマルサービスの提供
→ 公的サービスで賄えない部分を、会員同士で助け合うもの。
サービスの提供内容としては、食事作り、洗濯、掃除、買い物など。
利用料金は、月曜～金曜 9:00～17:00までで、1時間あたり800円となっている。
※上記の活動に関する資金は、当団体への入会金、会費、サービスに対する時間収入(単価×時間)が財源。
- ・当団体は、現在では公的サービス(介護保険事業)も行っているが、当初は生活クラブ生協の考え方から始まっており、「みんなで出資」「みんなで利用」「みんなで運営」という助け合いの組織が当団体の出発点で、その中から、地域支え合い活動に取り組むようになった。
- ・立ち上げ時の資金については、出資金制を採用していたため、出資金で賄った。また、母体の生活クラブ生協から物的な協力などもあり、スタッフも呼びかけで集めることが出来た。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

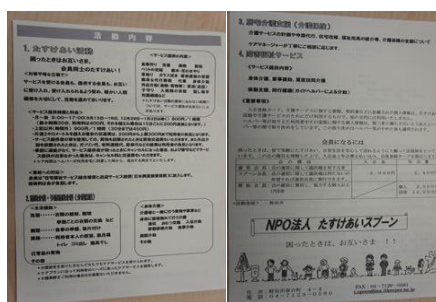
① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係にある団体は特にない。

② 情報発信の状況

- ・情報発信の手段は、「新聞広告」「会報」。

<当団体のパンフレット>



(4)地域支え合い活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「地域住民の認知や理解」。
- ・資金不足については、出資金制度を利用することで賄うことができた。また、母体が生活クラブ生協であったため、物的な支援を得ることが出来た。
- ・地域住民の認知や理解については、立ち上げ当初はこうした活動に対する認知度が低かったが、活動内容を掲載したチラシの配布や、生活クラブ生協の回覧物に相乗りさせてもらうことなどで、認知浸透を図った。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」。
- ・現時点では、必要なスタッフ数は確保できているが、高齢化していることが最大の問題となっており、若いスタッフの確保が課題となっている。ただ、日常の業務に追われていることなどから、若いスタッフの確保に向けた対応策は現状では行っていない。

(5)地域支え合い活動に取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・現状は、日々の業務に追われていることなどから、問題が発生した段階で対応する形をとっており、先を見据えて取り組むということを行っていない。
- ・今後、より一層地域支え合い活動を充実させるためにも、若いスタッフを確保し、活動の形を変えていくなどの取り組みも必要。

(6)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・震災を踏まえて整備したものはないが、災害・緊急時に向けたマニュアルは策定しており、策定時には、定例会において全員の意見を聴取し、集約したものをマニュアルに反映させるようにした。
- ・当団体は、会員との連携はできており、震災時も安否確認が比較的スムーズにできたが、行政機関や他の団体との連携ができていないため、この点は災害・緊急時における今後の課題である。

36. なのはな会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	なのはな会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
高齢者や身体に障害を持つ人達に対して、移送に関する事業及び介護・軽度生活援助事業を行い、これにより自立した生活を促進させ、地域密着型の福祉活動を目指し、地域福祉の向上に寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2004年 ※NPO法人化	野田市 ※移送先は全国	20人	-

[主な活動内容]

- ・福祉移送サービス
- ・訪問介護・訪問介護予防サービス(ヘルパー派遣)
- ・軽度生活援助サービス(家事援助全般・草取り等)
- ・住生活環境のアドバイス(家のリフォーム相談、お風呂・トイレ・手すり付け等)
- ・生活安心サポートサービス(介護保険申請のお手伝い等)
- ・葬儀事前相談(お見積り・ご予約等、葬儀全般)

(2) 活動状況

- ・見守り活動
 - 会員を対象として実施。会員数は600人程度で、見守り活動の例としては、例えば台風がくることが予想される場合、「気をつけてください。何かあれば連絡をください。」といったことを伝えながら様子を確認する。
 - 自主的に行っているため、料金は徴収していない。
- ・インフォーマルサービスの提供
 - 高齢者、障害者に対し、介護保険でカバーできない通院・入院時の移送や、親族への遺体の移送等を行っている。
 - また、困っている人がいれば、一般の人であっても、植木の手入れや家事などを援助している。
 - 上記のサービスは、会員以外でも利用可能で利用料金をもらうようにしている。
- ・地域支え合い活動を始めたのは、高齢者や困っている人達をサポートしているうちに、支え合い活動が必要であると感じるようになったから。
- ・立ち上げる際に参考にしたものはなく、利用者のニーズに対応して地域密着で活動を行ってきた。
- ・資金については、見守り活動は代表者が自己資金で賄っている。一方、インフォーマルサービスについては、利用者から利用料金を徴収しており、ヘルパー、ドライバーには働きに応じて対価を支払っているが、中には無償のボランティアで行っている人もいる。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係のある団体は、「社会福祉法人」。
- ・居宅介護を行っている事業所のケアマネと移送や生活支援などについて連絡を取り合っている。
- ・このほか、社協とも繋がりがあがるが、連携というレベルには達していない。

② 情報発信の状況

- ・情報発信の手段としては、「団体のHP」「新聞広告」を活用している。

<当団体のHP>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・ネットワークづくりについては、市や民生委員から、個人情報保護の観点から誰にアプローチすれば良いかを教えてもらえないため、同業者から情報入手することで対応した。
- ・地域住民の認知や理解については、人と人との繋がり、信頼関係の構築に向けて努力をした。当地は地縁が比較的強いので、サービス提供者である当団体のスタッフに対する信頼がどの程度のものであるかが重要となっている。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・ネットワークづくり、地域住民の認知や理解については、立ち上げ時と同様の対応を行っている。
- ・上記のほか、どこに、どんなことで、困っている人がいるのかについて、情報がないといった問題を抱えている。当事者が何も言っていない状況で、「何か支援が必要ではないですか?」とは言えない。こうした問題については、同業者との情報交換のほか、600人の会員からの情報や紹介などによって様子を見に行くことで対応するようにしている。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・見守り活動による安否確認、通院・入院に関する移送、介助などによる障害者・高齢者へのサポートなどできることは全てやっている。
- ・ただ、より活動内容を充実させていくには、人と人との繋がりの中で、いかに情報を入手していくかが課題。
- ・援助を必要としている人にもプライドがあり、援助を必要としている人とどのように繋がっていくかが一番難しい。

(6)今後の活動に向けて

- ・要援護者に対して、見回りをするにしても民生委員だけではカバーしきれないのが現状であり、孤独死も多くなってきている。そうした場合に当団体のような活動を行っている団体に依頼してもらえれば対応は可能である。

37. 佐倉市社会福祉協議会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	佐倉市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
誰もが地域で安心・安全に暮らすことができる「支え合いのまちづくり」を進めるために、地域に住民やボランティア・保健・福祉等の関係者、行政機関の協力を得ながら共に地域福祉を考え推進していくことを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1968年7月	佐倉市	-	-

[主な活動内容]

- ・日常生活自立支援事業
- ・在宅サービス
 - 「食事サービス」「外出支援サービス」「ふれあいいきいきサロン」「福祉車両の貸出」
 - 「移動サービス」「声の広報提供サービス」「介護保険・障がい福祉サービス」
 - 「居宅介護支援事業」
- ・収益事業(福祉売店)
- ・ボランティアセンター

(2) 活動状況

- ・見守り活動とインフォーマルサービスの提供
 - 市内で1,000人以上の福祉委員を有し、当団体から委嘱する訪問活動や、独居老人を対象とした食事会などを、各地区ごとに実施している。また、配食サービスの際には、高齢者の様子なども把握するようにしている。
- ・サロン活動
 - 都市部と農村部で、開催頻度や運営の仕方に相違がある。農村部では縁側でおしゃべりをするようなスタイルで開催しているケースがあり、都市部では自治会館などで開催しているケースがある。
 - サロンの参加費は100円で、その他の経費は会費や共同募金の還元金、寄付などで賄っている。
- ・研修等の人材育成
 - 当団体から地区社協に対して研修を行っているほか、地区社協から市民、福祉委員に対しても研修を行っている。
- ・地域支え合い活動に注力するようになったきっかけとしては、佐倉市において高齢化が進み、住民サイドで支え合う活動の必要性に気づいたのが始まりで、試験的に社協会長の地区において新たな活動を立ち上げた。
- ・活動内容としては、洗濯やゴミ出しの家事援助サービスで、立ち上げの3年前から計画を行い、市川市(家事支援サービス:「ねこの手」)など他の市町村の取り組みについて視察などを行った。他の地区は、社協会長の地区をモデルとして取り組みを開始した(現在、3つの地区で活動を開始)。
- ・立ち上げ時の資金については、地区によって異なるが、虹のサービスの場合、地区社協の活動費や会費などで賄った
- ・運営時の資金についても、地区の活動費、会費、寄付等を財源としているため、立ち上げ時とほぼ同様な方法。
- ※当団体では、設立当時から福祉活動に取り組んでいるため、上記の活動は新たな視点での取り組み。
- ※虹のサービス:住み馴れた地域で元気に安心して暮らせるように、家事援助を中心に自立の手助けを行うサービス。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係の状況

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携。
- ・自治会・町内会、地区社協との繋がりが強いが、行政機関を含め、可能な限り、多様な団体と連携がとれるような関係をつくっていききたい。
- ・地域支え合い活動には、多くの理解者、サポーターが必要で、活動に協力してもらえる団体を持つことは不可欠。

② 情報発信の状況

「団体のHP」「新聞広告」「回覧板」「県・市町村の広報誌」「セミナー等での告知」で情報発信している。

<地域支え合い活動:チラシ>



<地区社協の広報誌>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ノウハウ」「場所の確保」。
- ・資金不足については、拠点を設ける資金が不足したため、地域住民による寄付や、勤労奉仕で対応した。
- ・ノウハウについては、他の市町村への視察や事例研究を行ったほか、人を対象とするため、関係するスタッフについてマナー研修等も実施した。
- ・場所の確保については、地域特性に応じた場所を確保する必要があり、地域の富裕層の方の協力を得て低コストで場所の提供をしてもらったほか、手づくりが可能な部分については、福祉委員による勤労奉仕で対応するなどを行った。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」「情報不足」。
- ・スタッフの確保については、福祉委員をサポーターとして育成するようにしたほか、自治会の回覧板、イベントでのチラシの配布、口コミなどによってスタッフを確保するようにした。こうした対応で、地域とのコミュニケーションが密になり、人材を発掘できるなどの効果があった。
- ・ノウハウについては、市川市「家事支援サービス:ねこの手」などの事例を視察し、情報を地区社協と共有した。
- ・「虹のサービス(家事支援サービス)」などの導入の際には、提供サイドの想定するニーズと、地域住民サイドのニーズとでミスマッチが多くみられたため、地域住民サイドのニーズを汲み取れるよう、現場からの情報を重視するようにした。
- ・情報不足については、市の制度、制度間の棲み分けなどの点で情報不足があった場合は、出来るだけ顔を合わせて話し合うようにした。地域包括支援センターなど関係機関が相互に交流し、お互いの会議に参加するなどして、情報に祖語が生じないように配慮した。また、必要に応じてスタッフに対する研修も行った。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域福祉の増進を目的とした団体であるため、古くから地域支え合い活動は行っているが、家事支援サービスである「虹のサービス」など新たな視点で導入した活動については、事前に綿密に計画を練ったほか、事例研究、モデル地区での試験運用など通じて、運用時の課題を把握し、どのような解決策があるかを検討した上で取り組んだ。
- ・このほか、地域支え合い活動を推進していくために、地域における顔と顔を突き合わせた日頃の付き合いが重要だとの認識から、可能なかぎり顔を合わせるような取り組みを心掛けている。

(6)今後の活動に向けて

- ・社協、住民、行政機関、それぞれにできることを整理し、適切な役割分担を行い、役割を果たしていくことが必要。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時要のマニュアルは現在策定中で、災害時の役割分担の明確化に留意して作成している。

38. 習志野市社会福祉協議会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	習志野市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域福祉の推進を図る団体として、「誰もが安心して暮せるまちづくり」をめざしている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1959年8月	習志野市	-	6300人 ※ふれあい、いきいきサロン

[主な活動内容]

- ・ボランティア活動の推進。
- ・福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)
高齢者や障害者の方々が、安心して自立した生活を送るために必要な支援を実施。
「福祉サービス利用援助」「財産管理サービス」「財産保全サービス」「弁護士・司法書・社会福祉士紹介サービス」
- ・高齢者福祉の推進:福祉機器・介護用品の貸出し及び支給。あじさいクラブ連合会行事への支援。
在宅介護者リフレッシュ事業の開催など。
- ・児童福祉の推進:児童文庫への助成。青少年の健全育成への助成。ふくっぴーファミリーサロンの運営。
- ・障害者福祉の推進:車椅子のまま乗り降りできる福祉車輛の貸出し。福祉機器の貸出し。
障害者(児)とボランティアによる各種行事の開催など。
- ・在宅福祉の推進。

(2) 活動状況

・見守り活動

→市内16の地区社協による活動を中心とし、高齢者食事サービスを行っている。食事を届けるだけでなく、ふれあいを通じて安否確認も行っている。

・サロン活動

→「ふれあい いきいきサロン」は地域の誰でも参加でき、地域のボランティアスタッフが中心になって活動している。地区社協が中心になって独自で開催しており、頻度や参加費は地区によって異なっており、会場は公民館、町会の集会所、学校の空き教室を利用している。
上記のほか、「子育てサロン」なども実施している。

・インフォーマルサービス

→住民参加型家事援助サービスを行っている。無料で実施すると、気兼ねするため、時間当たりのチケット制。
チケットは400円で、うち100円を社協への寄付としている。

- ・団体の性格上、以前から地域支え合い活動を行っていたが、家事援助サービスに取り組むようになったのは、介護保険制度が始まった頃から保険制度の隙間を埋めるサービスが必要だと感じていたことがきっかけとなっている。
- ・家事援助サービスを導入する際には、先に実施して他の社協などの活動を参考とした。ボランティアスタッフについては、チラシで募集し、財源としては、社協の予算のほか、当時の県の助成金を活用した。
- ・運営時については、ボランティアスタッフは、チラシだけでなく社協の広報誌でもPRを行い協力者を募った。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

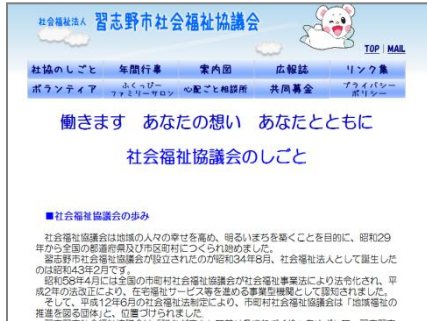
① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・地区社協については、抱えている問題などについて出来る限りの支援を行っている。
- ・自治会については、研修などで「こういう講座を開きたい」といった場合に協力しているほか、共同募金に関しては、社協への大きな協力者となっている。

②情報発信の状況

「団体のHP」「回覧板」「団体の広報誌」「地区社協の広報誌」で情報発信を行っている。

<当団体のHP>



<当団体の広報誌>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」「地域住民の認知や理解」。
- ・スタッフは、主にチラシを使って募集をした。家事援助サービスに関しては、地区によって土壌が異なっており、ボランティアとなってくれそうな人がいるかどうか、サービスのニーズがあるかどうか、地区社協として活動に対応できるキャパシティがあるかどうかなどの問題があり、全地区での実施とはなっていない。
- ・ノウハウについては、既に実施している他の市町村の社協や市内の団体などから情報を得るようにした。
- ・活動を開始する際に地域の認知浸透をしないと協力者すら得られないため、団体の広報誌などで告知した。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「スタッフの確保」「ネットワークづくり」。
- ・資金不足については、県からの助成が終了したため、市の補助金の活用に取り替えることで対応した。
- ・スタッフの確保については、既存のボランティアスタッフのロコミのほか、ボランティア養成講座の修了者から協力者を得るようにした。また、当団体の広報紙を活用してボランティアスタッフの募集告知などの対応も行った。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域支え合い活動について、子育てサロンの活動などを通じて若い世代を活動に取り込んでいきたいとしている。
※子育てサロンは、お母さん同士のロコミで広がり、お互いにメール交換をするなど交流の輪が広がっている。

(6)今後の活動に向けて

- ・サロン活動などで、常連の参加者はいるものの、新しい参加者は呼びかけてもなかなか反応がないこと、また、活動拠点に足を運ぶことができない人達をどうするのが、課題であり、解決に向けて取り組みたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・東日本大震災により断水や液状化が発生し、支部の拠点が使用できなかった。利用者名簿が支部内にあつたため、効率的に活動することができなかった。しかし、液状化への対応に関する情報を記載したチラシを、地区社協の協力により、全戸に配布することができた。
- ・震災後に支部の拠点に災害用の備品を配置。災害・緊急時に必要となる名簿類の情報を集約するなどの整備を行った。
- ・また、災害・緊急時における地域支え合い活動の運用マニュアルについて、県の社協のマニュアルをたたき台として、習志野市に合ったものへと作りかえる作業を行っている。

39. 住まいるへるぶ

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	住まいるへるぶ
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
高齢者や身体の不自由な人々が安心して安全に、かつ快適に暮らしやすい住まい等の住環境改善すなわち福祉住宅改修事業や軽度生活援助事業等を行う高齢者や身体の不自由な人やその家族の「生活の質」の向上と「自己実現」や「自立した生活」を促進させ、だれもが住みよいまちづくりと豊かな高齢化社会の発展に寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2003年9月	柏市、松戸市、我孫子市	12人	年間40件以上

〔主な活動内容〕

- ・手摺取付、段差解消等の住宅改修
- ・網戸、障子張替え、棚取付等の簡単な日曜大工仕事
- ・室内外清掃、庭木刈り込み等、軽度生活援助活動

(2) 活動状況の提供

- ・インフォーマルサービスの提供
 - 高齢者と障害者の自宅について、手すりの取り付け、段差解消、庭の草取り、庭木の剪定、日曜大工などを実施。ボランティア精神だけでは長続きしないため、作業を行った人には手当を支払っている。
 - 利用者は当団体の会員、非会員に分けられ、材料費のほか、利用会員は一時間あたり1,000円、非会員は1,200円の料金が必要となる。
 - 運営にかかる費用は、利用会員による会費や、利用者から支払われる時間あたりの対価で賄っている。工具は、各自が道具を持ち寄っている。
- ・その他
 - 市の非営利団体連絡会や福祉行事に参加している。
- ・地域で何かをしたいと思い、柏市の地域ビジネスに関する講習会に参加したところ、高齢者や障害者に対する福祉に関心を抱いたことがきっかけ。
- ・活動を始めるにあたって参考にしたのは、既に同じような活動を行っていた我孫子市の「NPO法人デイヘルプ」において勉強させていただいた。
- ・団体の立ち上げ時は、柏市の講習会で知り合った6人でスタートし、各自が資金を持ち寄って設立した。活動を知ってもらうため行ったことは、多様な団体が集まって実施するシンポジウムにおいて、活動について話しをしたりした。利用者や知人などの口コミにより活動が認知され、会員数も増えてきた。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・「自治体・町内会」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・柏市の非営利団体連絡会を活用して、他団体とのネットワークづくりを行っている。当団体への依頼は、地域包括支援センターを通じて依頼があるほか、最近では他団体とのネットワークが広がってきたことなどもあり、老人会で福祉について話しをする機会ももてるようになり、利用者が増えてきている。

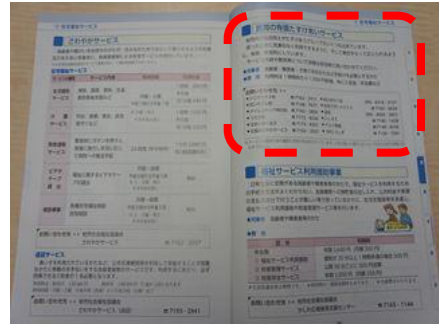
② 情報発信の状況

- ・情報発信の手段は、「県・市町村などの広報誌」「セミナー等での告知」。

<当団体のチラシ>



<柏市の広報誌内での掲載>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ノウハウ」「ネットワークづくり」「場所の確保」。
- ・ノウハウについては、当団体のスタッフが建築関連を専門としていたため、日曜大工や手すりの取り付けなどは熟知していたが、どのように行っていけばいいか不明であった。対応策として、我孫子市のNPO法人デイヘルプにおいて勉強させてもらった。
- ・ネットワークづくりについては、事業を進めていくには他の団体との関係づくりが必要と考えていた。対応策として、柏市の非営利団体連絡会や福祉行事に参加することで、相互に協力し合えるような関係づくりを行った。
- ・場所の確保については、当初、事務所を持つことを検討していたが出来なかった。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「情報不足」「場所の確保」。
- ・資金不足については、サービスの利用者から、時間当たりで料金を頂くようにすることで対応。当初は利用者が少なく、出資金で賅っていたが、最近では利用者も増え、改善されつつある。
- ・情報不足については、活動を全く白紙の状態からスタートしたが、チラシをまいても効果がなく、利用者が増えなかった。
- ・活動開始から3年程度は利用者がほとんどない状態が続いた。サービス内容を庭の草取り、家の中の掃除など身近なものにまで広げたところ、口コミを通じて徐々に認知が浸透していった。
- ・場所の確保については、事務所を持ちたいとは思いますが、当団体の規模では厳しいと思い断念。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・サービスの範囲を手すりの取り付けや段差解消など建築関連のものだけでなく、草取りや剪定、室内清掃など家事援助にまで拡大したことで、より利用しやすい活動内容とした。
- ・また、他の団体との関係づくりに注力してきたことから、様々な福祉施設、柏市の高齢者福祉課などから利用者の紹介がくるようになってきた。

(6)今後の活動に向けて

- ・利用者から、当団体に「依頼して良かった」と思われるように活動していくことを心掛けている。
- ・地域では、民生委員も地域支え合い活動を行っているが、1人でカバーできることは限られているため、当団体が活動を行っていくことで、支え合い活動がより充実するものになるようにしていきたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・震災時には当団体の利用会員を対象に電話で安否確認を行った。高層マンションに住んでいる人の中には、地震の揺れで家具が倒れるなどがあったが、そうした場合についても対応することができた。
- ・災害・緊急時を想定したマニュアルの策定はしていないが、緊急時にどう対処すべきかについて周知徹底している。
- ・震災後に取り組んでいるものとしては、当団体の利用会員に対して、柏市の防災福祉K-Netに登録するよう勧めている。災害・緊急時の場合、当団体でも安否確認を実施するが、K-Netに登録することでより支援を実施しやすくなるという点を伝えるようにしている。

40. ディヘルプ

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	ディヘルプ
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
1992年度厚生労働省は、第二次ゴールドプランを発表し「来るべき高齢化に向かって、明るく元気な高齢社会の構築を」と提唱した。その言葉に賛同して、男のボランティア「ディヘルプ」を発足。明るい、元気な高齢社会の構築を目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1994年10月 ※NPO法人化: 1999年10月	我孫子市、柏市	15-16人	360人

[主な活動内容]

- ・雑草の刈り取り／庭木の剪定
- ・家具の移動／室内の整理／ドアや雨戸の不具合
- ・不要品／廃棄物の処分
- ・電球の取り替え／障子の張り替え／錠前の修理

※当団体は、日曜大工の得意な男性を集めて立ち上げた組織で、「高齢者の家庭内事故を防いで、明るい高齢社会の構築」をスローガンに掲げて活動を行ってきた。

(2) 活動状況

- ・地域支え合い活動としては、「お助けマン参上」と銘うって、電気器具の修理、病院の送迎など、高齢者向けの手助けを行っている。
- ・インフォーマルサービスの提供
 - 自宅の階段の手すりの取り付けなどの住宅改修、庭木の剪定、電球の交換、家具の整理などを行うとともに、高齢者の話し相手を行っている。
 - 活動の資金については、NPO法人化以前は、住宅改修時の材料費だけを利用者に負担してもらっていたため、収入はなかった。住宅改修時に使用する工具などの購入費は、市や企業に申請して助成を受けたりしていた。NPO法人化後は、材料費のほかに1時間あたり500～600円程度の工賃・手間賃をもらうようになった。
- ・地域支え合い活動を始めたのは、1996年の厚生労働省の「来るべき高齢化に向かって、明るく元気な高齢社会の構築を」という提唱に賛同したのがきっかけとなっている。
- ・活動を始める際に、特に参考にした事例はなく、伸びた生垣に「早く切れ」と張り紙をされた高齢者の家があることを知り、そこを剪定したのを皮切りに、多数の高齢者宅の庭木の剪定・手入れを行うようになった。
- ・活動の立ち上げ当初は、資金はなく、スタッフの持ち出しで賄っていたが、その後活動の賛同者が10人ぐらいの団体となってからは、市や企業に申請を行い助成を受けたりしている。
- ・また、NPO法人となってからは、利用時に工賃・手間賃をもらうようになった。利用者については口コミで広がっており、資金面での問題は生じていない。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係のある団体は、「社会福祉法人」「地区社協」「自治体」。
- ・地区社協との関係が比較的強く、情報交換だけでなく、当団体で高齢者の後見人制度について勉強しているスタッフが地区社協の活動のサポートをしているなど、人的な交流も行っている。

② 情報発信の状況

- ・情報発信の手段としては、「団体のHP」「県・市町村などのHP」を活用している。

<当団体のHP>



<地域支え合い活動のチラシ>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「個人情報の取り扱い」。
- ・資金不足については、当初は材料費は利用者の実費負担で、それ以外は無償のボランティアとして行っていたため持ち出しの状態であった。NPO法人化をした際に、利用者から時間当たりの工賃・手間賃をもらうようにした。
- ・個人情報の取り扱いについては、高齢者宅を訪れて話し相手となったり、困りごとに対する援助を行うため、利用者の家庭の事情などを知ることがある。対応としては、活動を通じて知り得た利用者の個人情報については、口外しないことを徹底するようにしている。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ネットワークづくり」「情報不足」「個人情報の取り扱い」。
- ・ネットワークづくりについては、若い人が少々の謝礼では労働を提供したくないのが問題。
- ・情報不足については、市役所への相談者の困りごとについて、市役所から紹介されて当団体でサービスを行うことができるが、安くやってくれるという理由で依頼されることがある。対応としては、高齢者などで困っている人を対象とした活動であり、金銭的に余裕のある人は別のサービスを利用して欲しいと伝えるなど、利用者を絞り込むようにしている。
- ・個人情報については、立ち上げ時と同じく、利用者の個人情報は口外しないように徹底している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・高齢者が抱えている不安は想像以上に大きなものであることが多く、電話で済ませるのではなく、実際に訪問することが大切である。
- ・個人情報保護の問題を口実として、訪問はせず、電話のみで事を済ませようとする人が、要援護者支援を行っている人達にも増えているが、当団体は、訪問による対応原則として対応するようにしている。

(6)今後の活動に向けて

- ・地域支え合い活動は、お金との交換で提供するものではなく、心と心の通い合いで行っていくものだということを次の世代に引き継いでいきたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・東日本大震災当日は、電話が通じなかったため、当団体の会員を招集して高齢者宅を訪問し、安否確認を行った。
- ・安否確認をした訪問先では、タンスやテレビなどの家具が倒れるなど、高齢者で対応できない状況となっていたところがあり、震災後約1ヵ月間は家具の復旧・散乱した荷物の整理などを行った。
- ・災害・緊急時のためのマニュアルなどは未整備となっている。社協やNPOなどの他の市民活動団体と連携・協力していきたい。

(お問い合わせ先: 当団体HP)

41. 鎌ヶ谷市社会福祉協議会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	鎌ヶ谷市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域住民、民生委員・児童委員、社会福祉施設等の社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加協力のもと、地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「誰もが生きがいを持ち 支え合える まち」の実現を目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1963年4月	鎌ヶ谷市	91人	-

[主な活動内容]

- ・ふれあいサービス: 市内に在住の高齢者や心身に障害のある人等が日常生活で困難がある時「利用会員」となり、地域の中から参加した「協力会員」が家事援助・介助などのサービスを有料で提供する会員制・相互扶助の福祉サービス。
→ 家事補助サービス: 食事の支度・後片づけ・洗濯・簡単な繕いもの・掃除・片付け・布団干し・買い物・使いの代行
簡単な庭の手入れなど
介助・その他サービス: 食事の介助・排泄の介助・入浴介助の補助・身体の清拭・衣類の着替え介助・通院・散歩などの付き添い・見守り・話し相手など
- ・在宅介護者のつどい
寝たきりや認知症の高齢者等を在宅で介護している人を対象に、少しでも日頃の介護疲れを癒し、また同じ悩みや経験を持つ人達と交流することで今後の介護の励みにしてもらうことを目的に、鎌ヶ谷市高齢者支援課と共催で「在宅介護者のつどい」を実施。
- ・日常生活自立支援事業
在宅で日常生活を送る上で、適切な福祉サービスを利用するための手続きや、毎日の生活に欠かせないお金の出し入れが困難な高齢者、障害者の人が、地域で安心して生活するためのサポートを実施。

(2) 活動状況

- ・地域支え合い活動としては、住民参加型福祉サービス、ボランティアの育成・斡旋、各地区社協で在宅福祉(例: 独り暮らしの高齢者を対象としたイベントの開催等)、地区内の小中学校の協力のもと高齢者との交流事業、地区内の小中学校の協力のもと協力し障害者との交流事業などを取り組んでいる。
- ・見守り活動: 地区社協において取り組んでおり、頻度や内容は地区によって異なっている。
- ・インフォーマルサービス: 高齢者、障害者を対象に、電球交換やゴミ出しなどのサービスを行っている。
- ・研修等の人材育成: 広く市民を対象に実施しており、ボランティアを育成する研修を行っている。研修の回数は年度によって異なるが、年に3~4回程度となっている。
- ・当団体は地域福祉の増進を目的としているため、昔から地域支え合い活動に取り組んでいることなどもあり、活動に関して他の団体の活動を参考にしたというものはなく、活動を通じてニーズを吸い上げ対応している。
- ・地域支え合い活動の立ち上げ時の資金は、市の補助金や共同募金の分配金、年会費の一部を財源としている。ボランティアスタッフは自治会のメンバーや民生委員に依頼している。
- ・運営時の資金は、市の補助金や共同募金の分配金、年会費の一部を財源として活用している。スタッフについては、関係の深い団体等から運営委員を選出してもらっているほか、ボランティアの協力により運営している。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・団体の性格上、地区社協との関係が強くなっている。当団体の内部に地域ごとの担当がいるため、地区社協との情報交換は不可欠なものとしており、互いの会議に参加するなど情報共有や関係づくりに注力している。

② 情報発信の状況

「団体のHP」「新聞広告」「回覧板」「県・市町村の広報誌」が主な情報発信。

<当団体のHP>



<当団体の広報誌>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ノウハウ」「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・ノウハウ、ネットワークづくりについて、行政機関から見守り活動を行ってほしいという要請があったが、それまでは地区社協で行っていたため、社協としてもノウハウを蓄積するようにした。また、ネットワークをつくるために、社協と協力体制を組んでいきたい。また学校などの団体・組織に対して、巡回・説明を実施し、協力をお願いするようにした。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・資金不足について、立ち上げ当初に市から受けていた補助金が終了となったため、資金不足となった。そのため、共同募金の分配金や会費の一部を運営資金に充てたほか、別途市からの補助金を獲得するなどの対応を行った。
- ・地域住民の認知や理解について、広報紙やイベントなどを通じて地域支え合い活動をPRしているが、知っている人は知っているし、知らない人は知らない、という状況にあまり変化がない。対策として、上記のPRのほか、自治会や民生委員を通じて対象となる高齢者に情報伝達してもらうように協力を依頼している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・活動は、地域住民にも運営者の側として参加してもらうことで、地域住民のニーズを汲み上げるようにしている。

(6)今後の活動に向けて

- ・活動について、地域住民に十分に認知されていない状況があるが、利用者ではサービスを継続利用する人も多く、事業が存続していることから判断しても利用者からは高い評価を得ている。そのため、今後は広報活動に注力するなど、認知浸透に向けて取り組んでいきたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時に向けたマニュアルについては、当団体で災害ボランティアセンターの立ち上げに関わっていることもあり、現在策定しつつあり、今後訓練も行っていく予定。
- ・マニュアルの策定については、マニュアルをもとに実際に行動してみて、試行錯誤の結果を反映させていき、マニュアルの精度を高めていくようにしている。

42. 四街道市社会福祉協議会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	四街道市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
民間としての福祉活動の充実と地域住民の参加による福祉活動を推進することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1971年4月	四街道市	167人 ※職員数	2000人 ※サロン活動

【主な活動内容】

- ・「子育てサロン」: 市内5カ所を拠点とし、より地域に密着した子育て世代の交流の場として子育てサロンの開催。
- ・「障害者相談支援事業所 ひだまり」: 障害のある方の相談窓口。
- ・「ホームヘルパー」(訪問介護): 居宅介護、重度訪問介護、同行介護といった障害福祉サービス。移動支援といった地域生活支援事業。
- ・高齢者向け支援: 「ボランティアセンター」: ボランティアに関する相談窓口。
「ボランティアスクール」: 各種講座の開催。

(2) 活動状況

・インフォーマルサービスの提供

→「にこにこサービス」として、「困ったときはおたがいさま」をモットーに、地域の住民の参加と協力による会員制の有料サービス。高齢や障害などの理由により、本人や家族では補いきれない日常の家事などの負担軽減のための支援。
※サービス内容: 食事の支度、洗濯・補修、掃除、生活必需品の買い物、代筆及び朗読など
「給食サービス」として、70歳以上の独り暮らしの高齢者や重度身体障害者を対象に、月2回ボランティアが弁当を届け、安否確認や孤独感の解消を図ることを目的に実施している。利用料金は無料。

・サロン活動

→「会食サロン」として、地域に在住の高齢者を対象に、学校施設や給食を利用して会食サロンを実施。体操やレクリエーションのほか、児童・生徒とのふれあい交流など楽しい時間が過ごせるように工夫されている。

・春・秋のふれあい広場として、独り暮らしの高齢者を対象に、年2回(春、秋)日帰り旅行。行先は県内各所で、日帰りバス旅行の実施。

・見守り活動

→「地域見守り事業」として、自宅で生活している高齢者の誕生日に合わせて民生委員が訪問し、健康状態や安否確認などの見守り活動を実施。

・地域福祉の推進を目的とした団体であるため、支え合い活動には以前から取り組んでいるが、取り組んでいる活動の多くは、住民や地域からの要請に応える形で行っているものが多くなっている。

・給食サービスについては、ボランティアが行っていたことを社協として取り込むこととなった。

・活動については、立ち上げ時、運営時ともに市の補助金と会費が財源となっている。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携。
- ・地区社協、自治会・町内会との連携関係が強くなっており、自治会館を借りる時など、自治会・町内会を通じて行うことがあり、重要度の高い連携先となっている。
- ・また、福祉協力員制度というものを設けているが、自治体から1名を選出してもらうなど、運営協力を得ている。

② 情報発信の状況

「団体のHP」「回覧板」「県・市町村・公的団体のHP」「県・市町村の広報誌」「団体の広報誌」で情報発信。

<当団体のパンフレット>



<当団体のHP>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」「地域住民の認知や理解」。
- ・スタッフがなかなか集まらなかったが、自治会の回覧の活用などによって何とか確保できた。
- ・ノウハウについては、立ち上げに関しては不明なことが多かったため、他の市町村の社協にヒアリングを実施したり、見学にいたりして情報を収集した。
- ・地域住民の認知や理解については、新しい取り組みの場合、取り組み名称だけでなく、内容も理解してもらう必要があるため、チラシの配布や広報誌など各種の広報活動を行うことで対応した。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・各活動のボランティアスタッフが高齢化してきており、世代交代をしていかなければならないが、なかなか思うように進んでいない。ボランティアスタッフの募集は、広報紙や自治会の回覧板を通じて年1~2回程度行っている。
- ・ネットワークづくりは、よりよい地域支え合い活動を目指していく上で不可欠な要素。他の団体に比べ、当団体の性質上さまざまな団体と連携関係をとりやすいとは思いますが、現時点では特別な取り組みは行っていない。
- ・地域住民の認知や理解については、福祉の増進に向け多くの人に利用してもらいたいとしており、広報紙や回覧板などを用いて継続的に広報活動を行うことで対応している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・会食サロンでは、参加する高齢者が楽しい時間を過ごせるように、子ども達とのふれあいの機会を設けているほか、春・秋のふれあい広場では、日帰り旅行の行先を季節感の感じられる場所に設定するなど、工夫をしている。
- ・また、地域支え合い活動については、高齢者だけでなく、地域住民にも認知してもらうため、人目につき、興味を抱かれるような内容の広報活動を心掛けている。

(6)今後の活動に向けて

- ・当団体において、様々な内容の事業に取り組んでいるが、既存事業については、まだまだ伸びしろがあるため、より充実したものになるように注力したい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・2012年度に災害対応のマニュアルを策定した。また、同時に災害ボランティアセンターの立ち上げを検討しており、ボランティアの育成とボランティアの登録、自治会との連携などを考えている。

43. 山武市社会福祉協議会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	山武市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域福祉活動推進の中核的組織として、地域で抱える様々な問題を関係機関と一体となって解決していくことに取り組んでおり、『誰もが安心して暮らせるまちづくり』を推進することを使命としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2006年3月	山武市	-	793人 ※家事援助のみ

[主な活動内容]

- ・有料配食サービス事業：高齢者・高齢者の食生活の確保、改善を通して健康維持を図り、在宅生活を支えることを目的に業者による食事の配達サービスを実施。
- ・おとこの料理教室：概ね60歳以上の男性を対象に、基本的な調理の仕方と仲間づくりを支援。
- ・地域みまもりサービス事業：外出が難しく、特に安否確認や見守りを必要とする方へ、月1回ボランティアグループ等が用意した品物をもって、地区社協福祉推進員が訪問を実施。
- ・福祉輸送サービス事業(安全さん)：市民の参加と協力(相互扶助)による会員制のサービス。単独での公共交通機関利用が困難な会員が通院等で外出する際に、「協力会員」を派遣し有償で車両の運転による送迎・輸送支援を実施。
- ・住民参加型在宅福祉(家事援助)サービス事業(安心さん)：市民の参加と協力(相互扶助)による会員制のサービス。「利用会員」のお宅に「協力会員」を派遣し、有償で日常生活のお手伝いを実施。
- ・ふれあいいきいきサロン：子どもから高齢者までが地域の中で住民とふれあい、楽しい仲間づくりを進めていくことにより、いきいきとした生活や生きがいを得られるようにすることを目的に実施。

(2) 活動状況

- ・見守り活動
 - 他の福祉サービス非利用者で、70歳以上の独り暮らし高齢者、70歳以上の高齢者世帯を対象に月に1回実施。
- ・サロン活動
 - 対象者は子どもから高齢者までで、公民館など市内38ヵ所で個人のボランティアを中心としてお茶会などを実施。参加費は、各サロンの催しごとに異なり、当団体では活動費を3万円助成している。(サロン活動については、年4回以上の実施を、各サロンに依頼している。)
- ・インフォーマルサービスの提供
 - 住民参加型で有償の家事援助サービスを実施。対象は65歳以上を中心に、心身に障害がある人、小学生以下の子どもがいる世帯で、他の福祉サービスや障害者自立支援サービスを受けていないことを条件としている。家事援助サービスの利用にあたっては、会員になってもらい利用料金(チケット制)をもらうようにしている。
 - ※独り暮らし高齢者については、行政機関が利用料金の一部を助成している。
- ・地域支え合い活動は、社協として設立当初から取り組んでいるが、有償の家事援助サービスは、旧町民からの提案があつてスタートすることとなった。
- ・家事援助サービスは、住民参加型の事業であるため、県内で住民参加型の取り組みを行っている社協から資料を収集し、参考にして立ち上げた。また、スタッフ、利用会員の募集に関しては、当団体の広報誌を通じて行ったほか、在宅介護支援センターを通じ、活動を開始することのPRを行った。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係のある団体は、「自治会・町内会」「地区社協」「任意団体」。
- ・見守り活動については、地区社協に依頼しているほか、高齢者に対するサービスについては、自治会や地区社協に対して、行政機関と当団体から説明を行うなどしている。

②情報発信の状況

- ・「団体のHP」「回覧板」「民生委員を通じてのロコミ」「団体の広報誌」で情報発信している。

<当団体の広報誌>



<地域支え合い活動のチラシ>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「地域住民の認知や理解」「情報不足」。
- ・スタッフの確保、住民参加型の家事援助サービスを立ち上げる際のスタッフや利用会員の募集は、当団体の広報誌を利用して行った。また、活動に関するPRを在宅介護支援センターを通じて行った。
- ・地域住民の認知や理解については、合併して「市」になったこともあり、福祉活動に関する意識に地域差があった。そのため、当団体から自治会に職員が出向いて説明会を開き、住民への情報提供を行った。
- ・情報不足については、当団体の職員以外の者が地域に出向いて、地域支え合い活動について説明する機会があった。対応としては、「社協のしおり」という形で、ガイドブックを作成することで対応を行った。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「地域住民の認知や理解」「情報不足」。
- ・スタッフの確保については、立ち上げ時と同様に当団体の広報誌を活用している。
- ・地域住民の認知や理解については、地域に出向いて説明する機会が少なく、改善に向けた対応はできていない。
- ・情報発信が不足していると感じているため、年4回の広報誌や当団体のホームページ、チラシなどを通じて取り組み内容を紹介するように対応している。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・見守り活動の際には、対象者や活動の趣旨・内容について、民生委員に説明するなどをして、活動の認知浸透をはかるように取り組んでいる。
- ・また、当団体の地域支え合い活動関係の担当者は、自治会などの会合で関連性のある場合には、出来るだけ会合に出向いて、事業のPRをするようにしている。

(6)今後の活動に向けて

- ・活動を効果的に実施するためには、行政機関との連携が必須であり、より強固な関係を築いていきたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時に対応すべく、マニュアルの策定に向けて検討しており、千葉県の子協のマニュアルを基本に当地域に沿ったものに作り替えたいとしている。また、地域で座談会を実施し、災害時の対応などを話し合っている。

(お問い合わせ先:0475-82-7102)

44. 日替わりシェフの店さくらそう

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	③ 任意団体	5 地区社協	日替わりシェフの店さくらそう
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
「四街道を大切に」「作る人の喜び」「食べる人の喜び」「地域の喜び」をさくらそうの理念としている。料理好きな一般市民がシェフとなり、料理を提供し、地域の人々が時間を気にせず、ゆっくり楽しくおしゃべり出来る集いの場となるような店づくりを目指している。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2011年4月	四街道市及び周辺	54人	30人 ※レストランの1日当たり利用者

【主な活動内容】

- ・ 事業の柱は3つ。基本的なコンセプトは、コミュニティレストランで、地域でゆっくりくつろげる場の提供を目指している。
 - 日替わりシェフの店(ふれあいレストラン事業)：空き家を活用して地元の高齢者、団体等が生産する農産物を活用した食事を提供。シェフは、料理好きな主婦などの一般市民
 - 大きなテーブル(小さな親切事業)：福祉施設製品のショップで、障害者の方が作ったパンや工芸品をレストラン隣の部屋で販売。現在3つの団体が参加しており、各団体の障害者の方が日替わりで販売を担当している。
 - フルーツバスケット(大きなお世話事業)：「子供が小さくて買い物にいけない」、「足腰が痛く外に出るのが難しい」など買い物に行くのが難しい人向けの支援サービス。買物のお手伝いを通じて地域の人同士が知り合い、いざという時はお互いに助け合える、無縁社会と無縁な街を目指した活動。

(2) 活動状況

- ・ 市の外郭団体である、みんなで地域づくりセンターにおいて、地域の社会的弱者に向けて何か出来ることはないか？というのが起点。四街道の地産品、障害者の方の創作物を利用したもので考えていたところ、現在の内容となった。
- ・ 日替わりシェフの店さくらそうを開店する際には、千葉県内で先行して取り組んでいる「コミュニティダイニング おおさと」(大網白里町)、「ワンデイシェフレ스토랑 KANDENCHI」の取り組みなどを参考とした。
- ・ 日替わりシェフの店さくらそうでは、毎日、日替わりのシェフがいて日替わりの料理を提供し、そこに客として一般市民が集う仕組みとなっている。構成人員は、シェフのほか、シェフの手伝いで料理を作る人、店の事務や電話の対応をする人など、60人弱で構成されている。シェフは料理好きの主婦ら一般市民で、現在20人ほどいる。
- ・ 運営資金については、レストランでの販売収入、パン・工芸品の販売収入のほか、当団体の取り組みに賛同してくれるサポーターから年会費2,000円などがあり、それでやりくりをしている。
- ・ 現在の拠点となっている施設は市役所近くの住宅街の一戸建てで、月7万円でレンタルしている。

(3) 団体等との連携と情報発信について

① 他の団体等との連携関係

- ・ 「社会福祉法人」と連携している。当団体で取り組んでいる「大きなテーブル」(障害者によるパン・工芸品等の販売ショップ)については、地域福祉センターでも行っている活動で、その活動の一部を共同で、当団体でも行っている。
- ・ また、市の外郭団体であるみんなで地域づくりセンターは、活動開始時から助言等の面で、支援をしてもらっている。

② 情報発信の状況

- ・ 「団体のHP」「ソーシャルネットワーク(Facebook)」で情報発信を行っている。
- ・ 団体のHPでは、単なる情報提供ではなく、シェフのブログ(「さくらそうシェフブログ」)を掲載するなど、閲覧者に興味を抱いてもらえるよう工夫。最近は広報・宣伝に注力しており、市の産業祭りでチラシを配布したり、市の公民館やプール、運動場、知人の店などにポスターやチラシの設置、近隣の住宅にチラシのポスティングなどを行っている。

<日替わりシェフの店「さくらそう」の外観>



<当団体:パンフレット>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」。
- ・スタッフの確保について、「日替わりシェフの店 さくらそう」で日替わりでシェフになる、シェフの募集が一番の問題となった。インターネットのホームページやポスター、チラシなどで募集をしたが、最も効果があったのは、知人等を介した口コミであった。
- ・ノウハウについては、わからない点も多々あったが、地域づくりセンターなどからのアドバイスなどもあり、対応できた。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」。
- ・スタッフの確保については、シェフの確保が不足している。シェフの人数は、スタート時が13人で、現時点でも20人にとどまっており、1か月に25日間営業するとした場合、日替わりでは運用できない状況となっている。そのため、現在のところ、1人で2日担当するシェフも生じているとしている。
- ・ノウハウについては、みんなで地域づくりセンター、市役所、ボランティアで関わっている個人から、アドバイス等を受けて運営しているが、法律面での知識など、飲食店を運営するという面での専門知識が足りないと感じている。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・「日替わりシェフの店 さくらそう」は、2012年1月にオープンしたものであるが、利用者からは高い評価を得ており、リピートで来店する人も少なくない。また、組織づくりや予算管理、事業環境づくりなど、活動継続に向けた計画もほぼ完成してきている。
- ・ただ、当団体の活動に関する地域住民からの認知が不十分なこともあり、その点は大きな課題となっている。

(6)今後の活動に向けて

- ・地域住民への認知浸透に向けて、現在、広報活動に注力している。「日替わりシェフの店 さくらそう」も利用者が増えてきたこともあり、利用者からの口コミによる波及も期待できる状況となっており、着実に成果はあがってきている。
- ・今後も活動を継続して行い、「日替わりシェフの店 さくらそう」をサロンとして地域に定着させ、地域住民同士の繋がりを広げていきたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・現在、災害・緊急時に備えたマニュアルなどは策定していないが、当団体の拠点はレストランなどを行っているため、災害時に火元にならないように、かつ、来店客やスタッフが安全に避難できるようにすることを目的としたマニュアルを策定中。

45. 善隣会

(1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	善隣会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
障害のある人・ない人・幼児から高齢者まで全ての人々が地域社会の一員として、住み慣れた家庭や地域社会の中で、その人らしい生活が過ごせるよう、支援が必要な人々に対し地域住民の主体的なボランティア活動によって支え合う、地域福祉活動を積極的に支援し地域福祉を推進することを目指している。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1952年2月	香取市、 南房総市富山	100人	地域交流活動拠点:「風の郷」 入居者数:14人

【主な活動内容】

- ・障害者の社会的自立の支援を目的に、自然食工房(レストラン)「風の郷」、天然味噌工房「風の郷」などを運営し障害者の就労の機会、就労の場を提供している。
- 風の郷:生活保護法に基づき設立された救護施設 風の郷「厚生園」を中心とした施設で、社会的援助を必要とする施設利用者が、地域の一員として共生し、社会参加をしながら、『その人らしい人生』を送れるようにとノーマライゼーションの理念の基に『地域福祉』の推進を目指して様々な取り組みを行っている。
- 例えば、自然食工房「風の郷」は障害者のジョブトレーニングの場として活用されており、サービスは地域に向けてオープンにしている。こうした施設での就労支援を通じて、障害者の社会的自立を目指している。

(2) 活動状況

- ・社会福祉法人として香取市で救護施設「風の郷 厚生園」、富里で特別養護老人ホーム・ショートステイサービスセンター・デイサービスセンター・在宅介護支援センターとして「伏姫の郷」を運営している。
- ・そこに、2011年度に新たに地域交流活動拠点施設として小見川町の中心地近くに新たに購入した土地に、自然食工房(レストラン)・天然味噌工房・ジャム工房「風の郷」を立ち上げた。
- ・自然食工房(レストラン)は、障害者の就労支援の場として活用されており、スタッフとして働いている。施設の職員やボランティアスタッフのサポートを受けながら、接客等のサービスを行っている。
- ・自然食工房(レストラン)での就労については、ホテルのレストランを目標としており、ホテルマンと同じ制服を着て接客や配膳などを行っている。
- ※オーダーについては、間違いがあるといけないため、お客様に紙に書いてもらうシステムとなっているが、他の業務はホテルのレストランと同様のシステム。お客様からは、落ち着いて、安心して食事ができるとの評価。
- ・天然味噌工房(味噌づくり)は、スタッフ4人、施設(厚生園)入居者5人が交代で作業を行っている。
- ・原料となる大豆は、当団体の施設入居者等によって運営している畑(ドリームファーム「風の郷」)で生産したものを使用し、1kg600円で販売している。一度に12~14個程度しかつけれないため、ほぼ予約段階で完売。
- ・ジャム工房は、当団体の施設入居者等によって運営している畑(ドリームファーム「風の郷」)で生産されたブルーベリーとイチゴを使用している。ジャムは無添加で、一度に多くはつけれないため、売り切れるケースが多い。
- ※就労支援について
就労意欲のある風の郷「厚生園」居住者を含む障害者に対して、就労の機会と場を提供し、「働きたくなる仕事」、「誇りを持って働ける職場」の2つを大切に考え地域や自然との共生のなかで就労希望者の潜在能力を基本とした個別支援プログラムを用いて、クオリティの高い支援を実施している。

(3) 他の団体等との連携と情報発信について

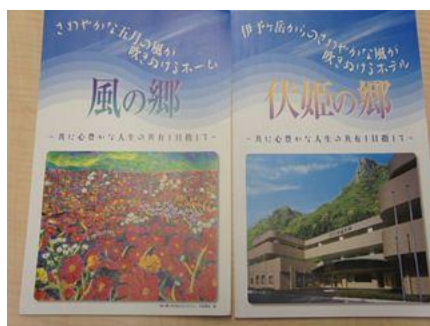
① 他の団体等との連携関係

- ・連携関係のある団体としては、「自治会・町内会」「地区社協」「任意団体」。
- ・連携内容は、情報交換のほか、ボランティアスタッフと自治会役員で実行委員会をつくり、運動会や納涼会などのイベントを開催するといったことなども行っている。

②情報発信の状況

- ・情報発信の手段は、「団体のHP」「新聞広告」「回覧版」「団体の広報誌」。
- ・独自の広報誌「風」を年3回発行。自然食工房「風の郷」、天然味噌工房「風の郷」のオープンの際には、特集号として発行し、新聞折り込みなどによって周知を図った。その結果、こちらの施設を認知してもらっていることもあり、多くの地域住民の方に利用されている。
- ・小学校5年生ぐらいの子どもでも理解できるようにビジュアルなどを工夫している。

<当団体のパンフレット>



<当団体の広報誌>



(4)活動における問題点と対処状況

①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ノウハウ」「ネットワークづくり」。
- ・立ち上げる際はノウハウ不足を感じた。これまで様々な施設のオープンを経験してきたが、本格的なレストランは初めてであったことから、事前に綿密に予算を組んで計画を立てて進めた。
- ・ただ、オープン直前になって不足しているものがあるなど、関係者全員で手配先を探すなどの対応を行った。
- ・他の団体との連携などネットワークの部分で不足を感じた。地域の既存の飲食店と競合が懸念されたため、迷惑をかけないように土日は休業にするなどの対応を行った。

②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」。
- ・自然食工房「風の郷」、天然味噌工房「風の郷」など新たに取組んだ事業については、事前に経費などを見積もって計画していたが、想定以上に維持管理費がかかった。

(5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・自然食工房「風の郷」、天然味噌工房「風の郷」をオープンする際には、地域住民の認知・理解を得られるようにするため、広報誌「風」の特集号を発行し、新聞の折り込みチラシとして活用した。
- ・また、地域の人に親しんでもらえるような施設にするため、自然食工房「風の郷」(レストラン)の個室の壁面はギャラリーとして使用しており、地域の子どもの絵を飾るようにしている。

(6)今後の活動に向けて

- ・当施設で就労している入居者は、仕事を通じて様々な人と接することができ、自分が認められているという実感を得ることで楽しみや喜びを感じており、顔つきもどんどん変わってきた。
- ・就労に対する評価についても関心を抱く人が多く、自分の評価の理由を聞いてくれるなど積極的な態度がみられ、活動を通じた成果がみられてきている。
- ・現在、当団体の入居者は、働ける人が40%となっているが、もっと就労の場をつくっていくことで、働ける人を増やしていきたい。そして、社会人として自立させていくようにしたい。

(7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時における地域支え合い活動に関するマニュアルは、作成中で2012年内に完成の予定。